最終集計結果（単純集計表）

図書館休館対策プロジェクト

「図書館休館による研究への影響についての緊急アンケート」

（4/17～4/30 確定値）

2020/05/03 Sun.
図書館休館対策プロジェクト
（https://closedlibrarycovid.wixsite.com/website）

調査概要

調査目的	新型コロナウィルス感染拡大の影響による図書館の休館やサービス縮小が、研究（※）の実施に生じている困難の現状を明らかにすること。 （※）「研究」には、研究者（大学・民間企業等の所属は不問）や学生（大学院生・大学生・研究生等）によるものなど、広範な意味での研究活動を含めています。
調査対象	広義の研究者（大学・民間企業等の所属は不問）及び学生（大学院生・大学生・研究生等）
有効回答数	2,519 名
調査期間	2020 年 4 月 17 日（金）～2020 年 4 月 30 日（木）
調査方法	インターネット調査（メーリングリスト、SNS、ウェブサイト等を利用）
調査主体	「図書館休館対策プロジェクト」（https://closedlibrarycovid.wixsite.com/website）

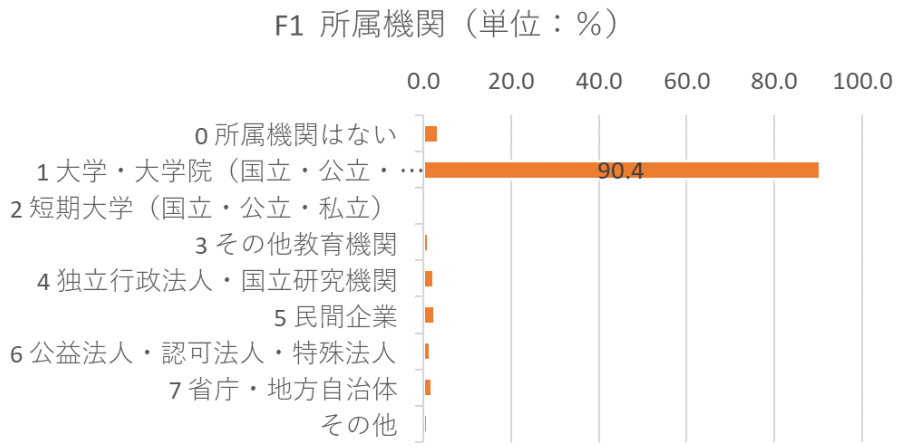
- 本調査の回答者は、プロジェクトへの協力者を通じてメーリングリスト・SNS・ウェブサイト等を経由して（いわゆるスノーボールサンプリングによって）得られたものであり、全数調査や無作為抽出による標本調査でないことに留意されたい。

- 上記のような調査方法をとっているため、本調査の回答者は一定の同質性を持つ。具体的には、回答者の多くは「大学に所属し人文・社会科学系分野を専攻する者」であり、東京都内に所属機関がある者や居住する者が多い（「プレスリリース」も参照）。

- そのため本調査の結果は、調査目的に照らして本来想定され得る当事者全体の傾向を正確に反映しているものではない。この点を踏まえた上で、調査結果をご覧頂きたい。

F1 所属機関

F1 あなたの所属機関を教えてください。（複数選択可）



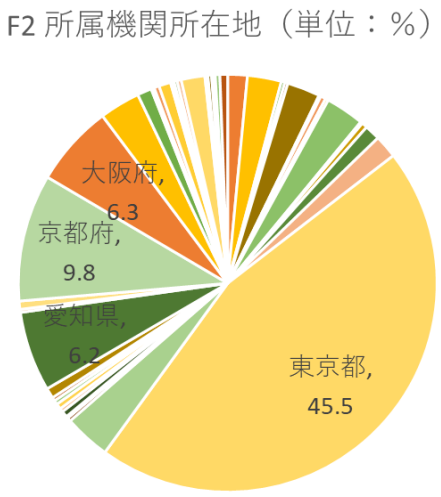
［2,519名］

値	選択肢	人数	%
0	0 所属機関はない	83	3.3
1	1 大学・大学院（国立・公立・私立）	2277	90.4
2	2 短期大学（国立・公立・私立）	17	0.7
3	3 その他教育機関	29	1.2
4	4 独立行政法人・国立研究機関	58	2.3
5	5 民間企業	61	2.4
6	6 公益法人・認可法人・特殊法人	35	1.4
7	7 省庁・地方自治体	49	1.9
8	その他	22	0.9

- 本調査の回答者の 9 割は大学・大学院に所属する者である。

F2 所属機関所在地

F2 所属機関がある都道府県を教えてください。（複数の拠点がある場合は、あなたが最も利用する拠点についてお答えください。）



［2,519名］

選択肢	人数	%
所属機関はない	38	1.5
北海道	66	2.6
青森県	7	0.3
岩手県	6	0.2
宮城県	64	2.5
秋田県	4	0.2
山形県	10	0.4
福島県	6	0.2
茨城県	75	3.0
栃木県	4	0.2
群馬県	11	0.4
埼玉県	30	1.2
千葉県	45	1.8
東京都	1145	45.5
神奈川県	90	3.6
新潟県	7	0.3
富山県	4	0.2

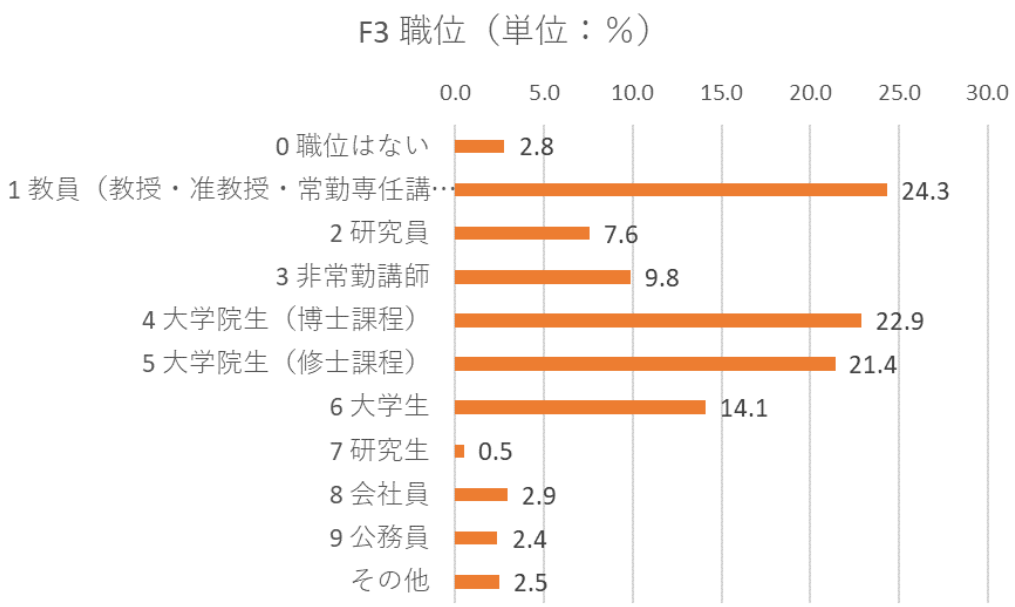
値	選択肢	人数	%
17	石川県	12	0.5
18	福井県	7	0.3
19	山梨県	11	0.4
20	長野県	8	0.3
21	岐阜県	7	0.3
22	静岡県	20	0.8
23	愛知県	156	6.2
24	三重県	6	0.2
25	滋賀県	16	0.6
26	京都府	248	9.8
27	大阪府	159	6.3
28	兵庫県	79	3.1
29	奈良県	28	1.1
30	和歌山県	2	0.1
31	鳥取県	0	0.0
32	島根県	4	0.2
33	岡山県	10	0.4

値	選択肢	人数	%
34	広島県	23	0.9
35	山口県	5	0.2
36	徳島県	1	0.0
37	香川県	1	0.0
38	愛媛県	6	0.2
39	高知県	8	0.3
40	福岡県	46	1.8
41	佐賀県	3	0.1
42	長崎県	3	0.1
43	熊本県	7	0.3
44	大分県	1	0.0
45	宮崎県	1	0.0
46	鹿児島県	5	0.2
47	沖縄県	9	0.4
48	その他（海外等）	15	0.6
	合計	2519	100.0

- 回答者のうち、所属機関が東京都にある者が約半数を占める（45.5%）。
- これは p. 1 で述べた調査方法の特性も影響していると考えられる。

F3 職位

F3 あなたの職位を教えてください。(複数選択可)



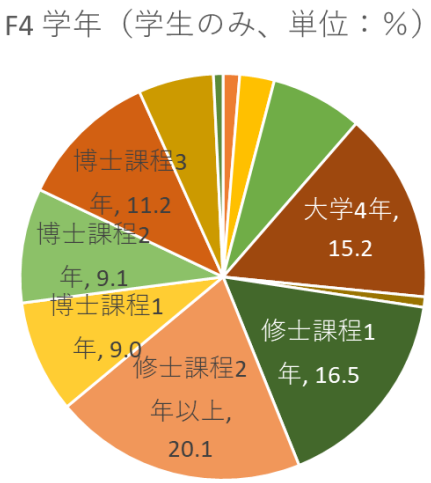
[2,519名]

値	選択肢	人数	%
0	0 職位はない	70	2.8
1	1 教員（教授・准教授・常勤専任講師・助教等）	613	24.3
2	2 研究員	191	7.6
3	3 非常勤講師	248	9.8
4	4 大学院生（博士課程）	576	22.9
5	5 大学院生（修士課程）	539	21.4
6	6 大学生	356	14.1
7	7 研究生	12	0.5
8	8 会社員	74	2.9
9	9 公務員	60	2.4
10	その他	62	2.5

- 回答者のうち学生が約 6 割を占める（大学院生＋大学生＋研究生が 58.9%）。
- 回答者のうち約 2 割が教員である（24.3%）。

F4 学年（学生のみ）

F4（大学生・大学院生の方）あなたの学年を教えてください。（数値記入）

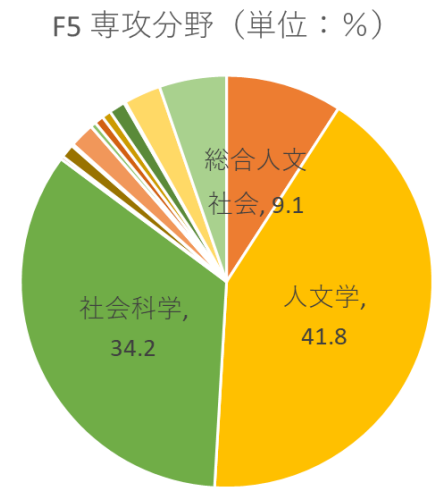


［1,449名］

		人数	%
1	大学1年	19	1.3
2	大学2年	40	2.8
3	大学3年	106	7.3
4	大学4年	220	15.2
5	大学5・6年	12	0.8
6	修士課程1年	239	16.5
7	修士課程2年以上	291	20.1
8	博士課程1年	130	9.0
9	博士課程2年	132	9.1
10	博士課程3年	162	11.2
11	博士課程それ以上	87	6.0
12	学年以外の情報（年齢・大学名等）	11	0.8
	合計	1449	100.0

F5 専攻分野

F5 あなたの専攻分野を教えてください。



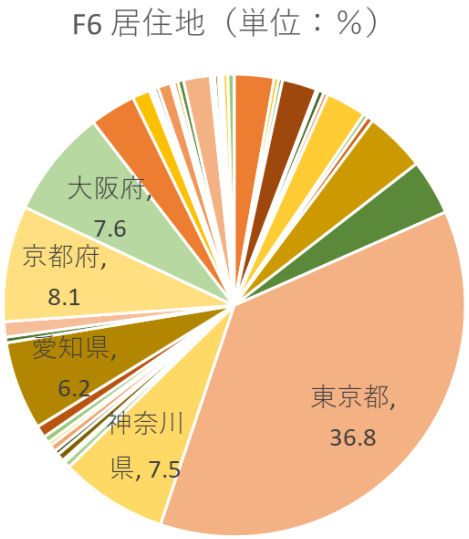
［2,519名］

値	選択肢	人数	%
1	総合人文社会	230	9.1
2	人文学	1053	41.8
3	社会科学	862	34.2
4	総合理工	6	0.2
5	数物系科学	27	1.1
6	化学	4	0.2
7	工学	49	1.9
8	総合生物	0	0.0
9	生物学	11	0.4
10	農学	18	0.7
11	医歯薬学	18	0.7
12	情報学	32	1.3
13	環境学	3	0.1
14	複合領域	73	2.9
15	その他	133	5.3
	合計	2519	100.0

- 本調査の回答者の 8 割強が人文・社会科学系分野を専攻している（総合人文社会＋人文学＋社会科学が 85.2%）。
- p. 1 で述べた調査方法の特性から、本調査の結果はすべての専攻分野の研究者・学生の人口分布を忠実に反映したものではなく、主に人文・社会科学系分野を専攻する者の回答によるものであることに留意されたい。

F6 居住地

F6 あなたがお住まいの都道府県を教えてください。



［2,519名］

値	選択肢	人数	%
1	北海道	70	2.8
2	青森県	8	0.3
3	岩手県	7	0.3
4	宮城県	61	2.4
5	秋田県	4	0.2
6	山形県	10	0.4
7	福島県	8	0.3
8	茨城県	71	2.8
9	栃木県	8	0.3
10	群馬県	11	0.4
11	埼玉県	107	4.2
12	千葉県	98	3.9
13	東京都	927	36.8
14	神奈川県	189	7.5
15	新潟県	11	0.4
16	富山県	5	0.2

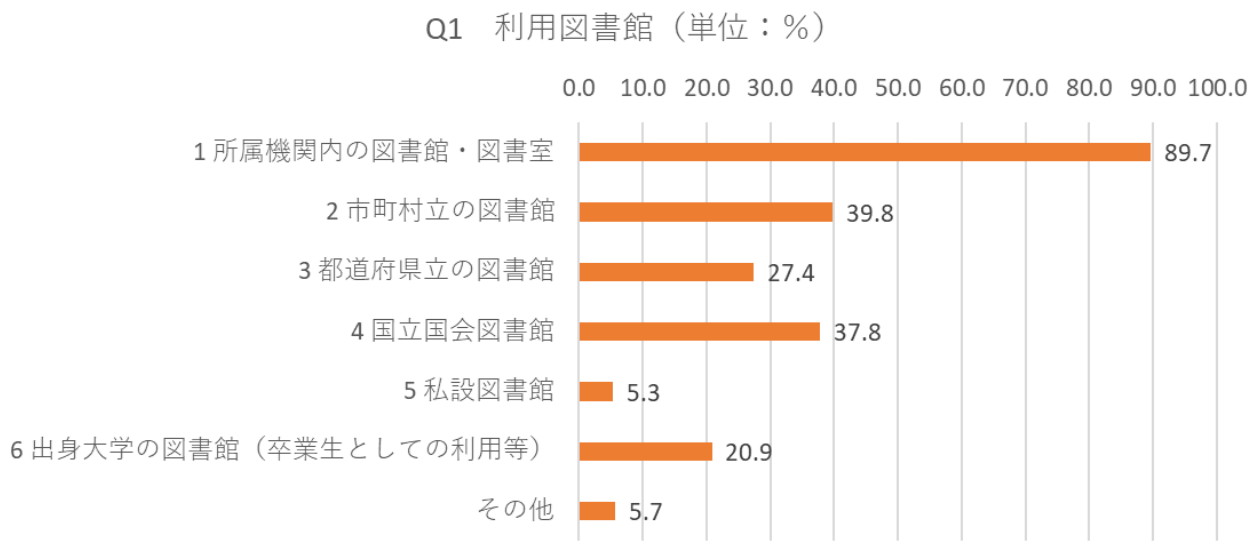
値	選択肢	人数	%
17	石川県	13	0.5
18	福井県	8	0.3
19	山梨県	12	0.5
20	長野県	7	0.3
21	岐阜県	12	0.5
22	静岡県	21	0.8
23	愛知県	156	6.2
24	三重県	10	0.4
25	滋賀県	27	1.1
26	京都府	204	8.1
27	大阪府	191	7.6
28	兵庫県	81	3.2
29	奈良県	31	1.2
30	和歌山県	5	0.2
31	鳥取県	1	0.0
32	島根県	4	0.2

値	選択肢	人数	%
33	岡山県	6	0.2
34	広島県	23	0.9
35	山口県	4	0.2
36	徳島県	1	0.0
37	香川県	1	0.0
38	愛媛県	7	0.3
39	高知県	10	0.4
40	福岡県	47	1.9
41	佐賀県	3	0.1
42	長崎県	5	0.2
43	熊本県	6	0.2
44	大分県	1	0.0
45	宮崎県	2	0.1
46	鹿児島県	5	0.2
47	沖縄県	9	0.4
48	その他（海外等）	11	0.4
	合計	2519	100.0

- 回答者のうち、東京都に住む者が約 4 割を占める（36.8%）。
- これは「F2　所属機関所在地」と同様の傾向であり、p. 1 で述べた調査方法の特性も影響していると考えられる。

Q1 利用図書館

Q1 あなたが普段、研究のために利用する図書館を教えてください。（複数選択可）



［2,519名］

値	選択肢	人数	%
1	1 所属機関内の図書館・図書室	2259	89.7
2	2 市町村立の図書館	1002	39.8
3	3 都道府県立の図書館	691	27.4
4	4 国立国会図書館	953	37.8
5	5 私設図書館	133	5.3
6	6 出身大学の図書館（卒業生としての利用等）	527	20.9
7	その他	143	5.7

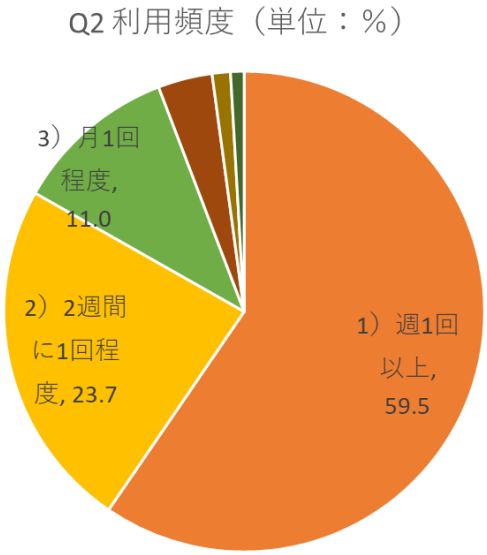
- 回答者の約 9 割が所属機関内の図書館・図書室を利用している（89.7%）。

- 約 4 割が市町村立の図書館（39.8%）と国立国会図書館（37.8%）を、約 3 割が都道府県立の図書館（27.4%）を、約 2 割が出身大学の図書館（20.9%）を利用している。

- 「その他」（143 件）の内訳は多い順に以下の通り。
  - 他大学の図書館（67 件）、非常勤先の図書館（14 件）、外国の図書館（10 件）、
  - 文書館・資料館（9 件）、専門図書館（7 件）、国文学研究資料館（6 件）、研究所の図書館（6 件）、
  - 博物館内の図書館（5 件）、美術館内の図書館（3 件）、東洋文庫（3 件）、それ以外（16 件）。

Q2 利用頻度

Q2 あなたは普段、研究のためにどのくらいの頻度で図書館を利用しますか。(複数の図書館をご利用の場合は、最もよく利用するものについて教えてください。)



[2,519名]

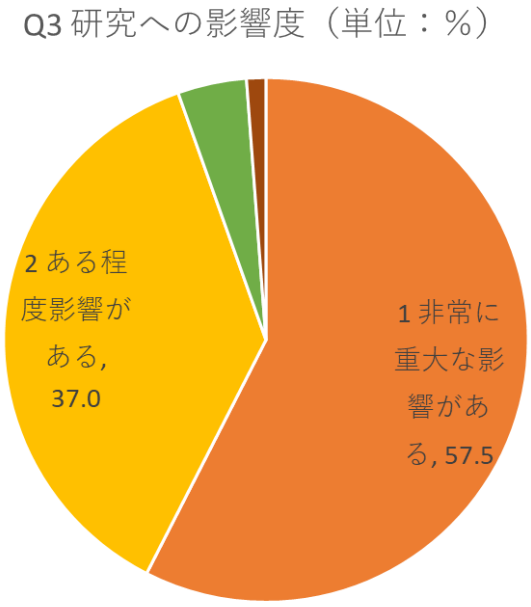
値	選択肢	人数	%
1	1）週1回以上	1500	59.5
2	2）2週間に1回程度	596	23.7
3	3）月1回程度	277	11.0
4	4）2～3か月に1回程度	92	3.7
5	5）半年に1回以下	31	1.2
6	その他	23	0.9
	合計	2519	100.0

- 回答者の約 6 割が「週 1 回以上」研究のために図書館を利用している（59.5%）。

- 約 2 割が「2 週間に 1 回程度」(23.7%)、約 1 割が「月 1 回程度」(11.0%)、研究のために図書館を利用している。

Q3 研究への影響度

Q3 新型コロナウィルス感染拡大の影響により、各地で図書館の臨時休館やサービス縮小が行われています。このことはあなたの研究にどのくらい影響がありますか。



[2,519名]

値	選択肢	人数	%
1	1 非常に重大な影響がある	1449	57.5
2	2 ある程度影響がある	933	37.0
3	3 あまり影響がない	107	4.2
4	4 まったく影響がない	30	1.2
	合計	2519	100.0

- 図書館の臨時休館やサービス縮小により、回答者の約 6 割が自身の研究に「非常に重大な影響がある」と答えている（57.5%）。4 割弱が「ある程度影響がある」と答えている（37.0%）。

Q4 具体的影響

Q4 各地の図書館の臨時休館やサービスの縮小が、あなたの研究に与えている具体的な影響を教えてください。（複数選択可）

［2,519名］

値	選択肢	人数	%
1	1 卒業論文・修士論文・博士論文等に必要な文献の収集ができない	1478	58.7
2	2 研究プロジェクト（科研費等によるもの、業務としてのもの等を含む）の実施に必要な文献の収集ができない	1103	43.8
3	3 学術誌への投稿論文に必要な文献の収集ができない	1281	50.9
4	4 学術書籍の執筆に必要な文献の収集ができない	660	26.2
5	5 学会発表に必要な文献の収集ができない	910	36.1
6	6 図書館のインターネット環境を利用できない	429	17.0
7	7 図書館のパソコンを利用できない	221	8.8
8	8 図書館を自習スペースとして利用できない	816	32.4
9	9 影響はない	69	2.7
10	その他	159	6.3

- 学位論文の提出年次に在籍する学生（大学 4 年・大学院修士課程 2 年以上・大学院博士課程 3 年以上）760 名のうちでは、9 割以上が「卒業論文・修士論文・博士論文等に必要な文献の収集ができない」と回答している（94.6%、719 名）。

- 約半数が「学術誌への投稿論文に必要な文献の収集ができない」（50.9%）、4 割強が「研究プロジェクト（科研費等によるもの、業務としてのもの等を含む）の実施に必要な文献の収集ができない」（43.8%）、4 割弱が「学会発表に必要な文献の収集ができない」（36.1%）と回答している。

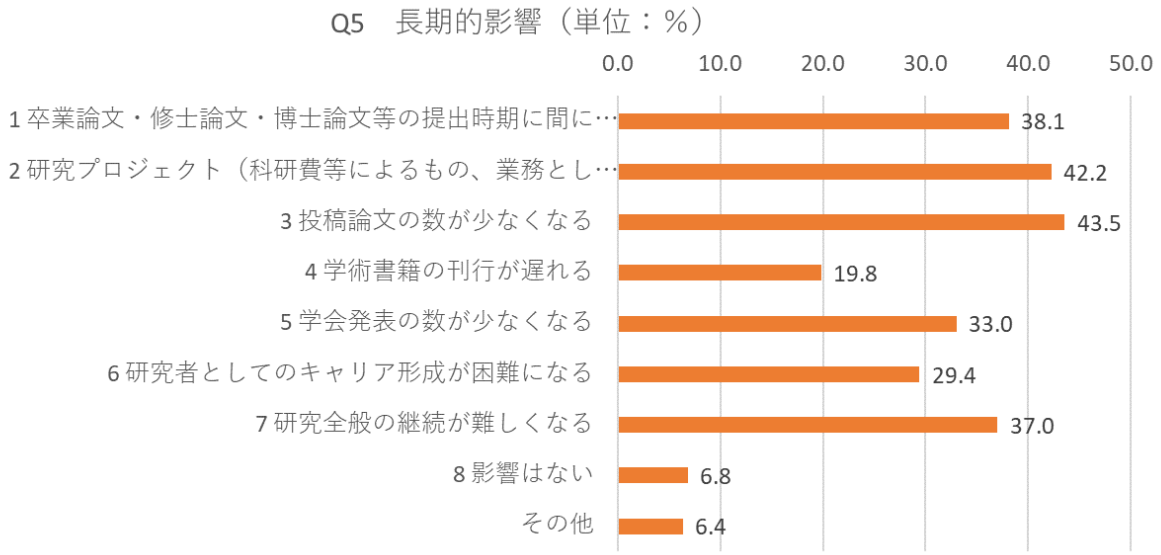
- 「その他」（159 件）のうち、多かったものは、教育（講義・学生指導）への影響（59 件）、レポート作成への影響（15 件）、館内限定のデータベース・電子ジャーナルが利用できない（13 件）、自主学習への影響（12 件）、申請書（日本学術振興会特別研究員の申請書等）の作成ができない（6 件）、国会図書館の図書館送信サービスが利用できない（5 件）、などである。

- 最も多かった「教育（講義・学生指導）への影響」（59 件）の一部をご紹介する。
  - ✧　「非常勤の大学での教育に必要な文献が借りられない。」

✧ 「授業の教材・準備のための文献資料が収集できない」
✧ 「卒論担当学生に参考文献を紹介することが難しい、また、授業準備に影響が大きい」
✧ 「指導している大学院生がゼミで必要とする本を図書館で借りられない」

Q5 長期的影響

Q5 各地の図書館の休館やサービスの縮小が、あなたの研究に与える長期的な影響について教えてください。(複数選択可)



[2,519名]

値	選択肢	人数	%
1	1 卒業論文・修士論文・博士論文等の提出時期に間に合わない	960	38.1
2	2 研究プロジェクト（科研費等によるもの、業務としてのもの等を含む）の実施が遅れる	1064	42.2
3	3 投稿論文の数が少なくなる	1097	43.5
4	4 学術書籍の刊行が遅れる	500	19.8
5	5 学会発表の数が少なくなる	832	33.0
6	6 研究者としてのキャリア形成が困難になる	741	29.4
7	7 研究全般の継続が難しくなる	932	37.0
8	8 影響はない	172	6.8
9	その他	160	6.4

- 回答者の 4 割強が「投稿論文の数が少なくなる」(43.5%)、「研究プロジェクト（科研費等によるもの、業務としてのもの等を含む）の実施が遅れる」(42.2%) と回答している。
  - ➢ 今後の研究業績評価（各種申請、就職活動、機関評価等）においては、今般の図書館休館等の状況への十分な配慮が求められるといえる。
  - ➢ 研究に関する各種期限の延長や基準（学位論文申請時の査読付論文数の要件等）の緩和についても検討する必要があると考えられる。

- 学位論文の提出年次に在籍する学生（大学 4 年・大学院修士課程 2 年以上・大学院博士課程 3 年以上）760 名のうちでは、約 7 割が「卒業論文・修士論文・博士論文等の提出時期に間に合わない」と回答している

（70.3%、534 名）。

- 学位論文の提出期限の延長等、今年度学位論文を提出しなければならない学生への配慮を検討する必要がある。

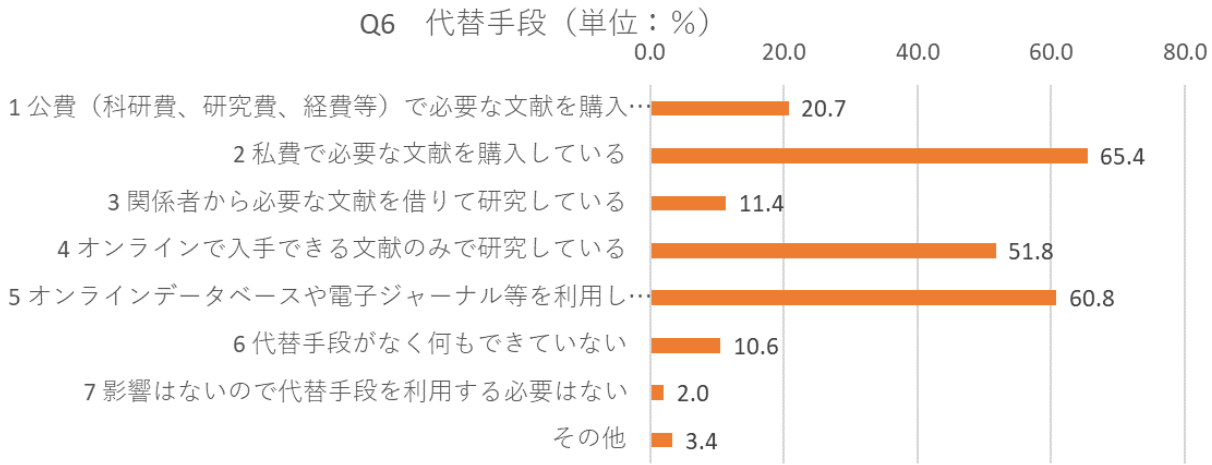
- 回答者の 4 割弱が「研究全般の継続が難しくなる」（37.0%）、約 3 割が「研究者としてのキャリア形成が困難になる」（29.4%）と回答している。
  - 特に後者は、次世代の研究者育成にも重大な影響があることを示している。

- 「その他」（160 件）のうち、多かったものは、研究の質の低下（28 件）、教育（講義・学生指導）への影響（18 件）、学習への影響（17 件）、経済的影響（13 件）、研究進捗の遅れ（13 件）、レポート作成への影響（8 件）、卒業への影響（7 件）、などである。

- 最も多かった「研究の質の低下」（28 件）の一部をご紹介する。
  - 「アウトプットが遅れたり少なくなったりというより、参照文献がオンラインのジャーナルに制限されるので、研究が質的に低下しないかと不安視しています。一応研究の遂行や原稿を書き上げることはできるのですが、個人では高くて買えないような書籍を参照できないのは質の低下につながります。」
  - 「論文投稿や発表はできるかもしれないが、質が落ちる。」
  - 「修論提出に間に合わないことはないが、十分なリサーチはできない」
  - 「場合によっては、不十分な調査結果のまま（再調査が出来ないまま）、学術書籍を刊行しなければならなくなるかもしれない。」

Q6 代替手段

Q6 図書館の休館やサービス縮小による研究への影響を受けて、あなたはどのような代替手段を利用していますか。（複数選択可）



［2,519名］

値	選択肢	人数	%
1	1 公費（科研費、研究費、経費等）で必要な文献を購入している	522	20.7
2	2 私費で必要な文献を購入している	1648	65.4
3	3 関係者から必要な文献を借りて研究している	286	11.4
4	4 オンラインで入手できる文献のみで研究している	1305	51.8
5	5 オンラインデータベースや電子ジャーナル等を利用して研究している	1532	60.8
6	6 代替手段がなく何もできていない	266	10.6
7	7 影響はないので代替手段を利用する必要はない	51	2.0
8	その他	85	3.4

- 回答者の 6 割強が「私費で必要な文献を購入している」と回答している（65.4%）。
- 公費での購入ができている回答者は約 2 割に留まる（20.7%）
  - 現状が長引けば、経済的負担が重くなることが懸念される。

- 約 6 割が「オンラインデータベースや電子ジャーナル等を利用して研究している」（60.8%）、約半数が「オンラインで入手できる文献のみで研究している」（51.8%）と回答している。
- 約 1 割が「代替手段がなく何もできていない」と回答している（10.6%）。

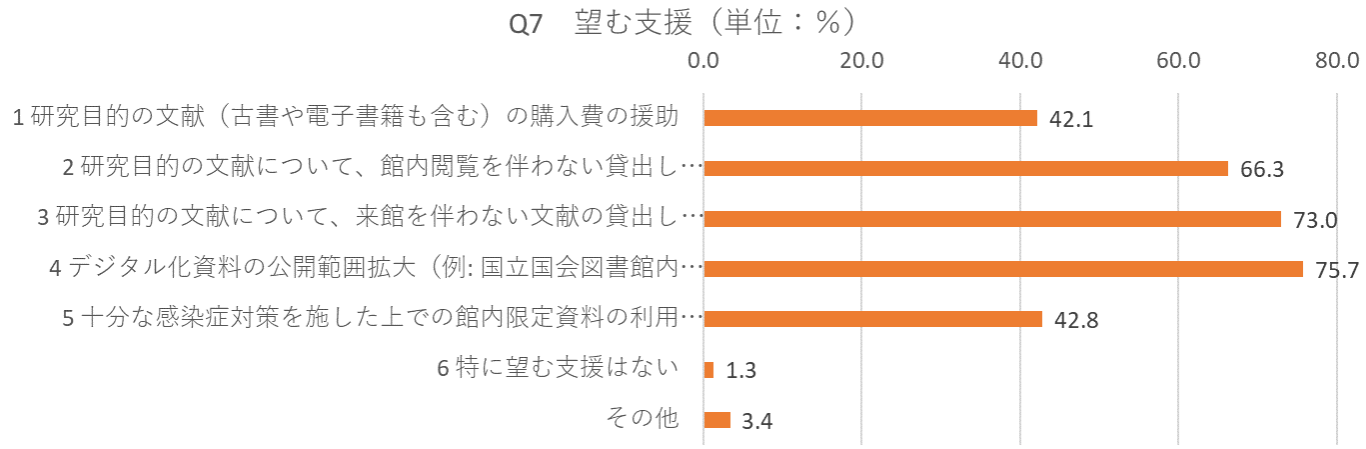
- 「その他」（85 件）のうち、多かったものは、手持ちの文献で対応している（17 件）、代替できないものがある（16 件）、休館前に急いで借りた（12 件）、研究内容や順番を変更した（8 件）、である。

- 「手持ちの文献で対応している」（17 件）、「代替できないものがある」（16 件）、について一部をご紹介する。
  - 「手持ちの文献で対応している」（17 件）
    - 「現在は既に入手した文献・史料を読み込む時間と割り切っている」
    - 「とりあえず手元にあるもので書けるところから書いている。論理の穴を埋めるために必要な文献なので、あとで足せばいいように書いているが、いかんせん質が落ちるし、いちいち組みなおしながら書かなければいけないので余計に手間がかかっている。」
    - 「歴史研究のため古文書を読む必要がある。これまで手元でコピーしてある物を使うことで対応している。」

  - 「代替できないものがある」（16 件）
    - 「本や論文は購入が可能ですが、雑誌等の資料はアクセスができません。」
    - 「購入できる書籍は購入する予定だが、古い論文誌など購入できないものは入手できない。」
    - 「相当部分は自分で手当てしているが過去の希少な文献や記録の確認なので、国立国会図書館が開かないとチェックできない部分がある」
    - 「データ化されていない日記や雑誌などの史料をしらみつぶしに見ていくことができない。最終日に図書館から借りてくることのできた本や史料を読み込み、主にインプットを深める。」
    - 「代替しようがないものが多くて、実質進まない。」
    - 「個人では収集困難な過去の雑誌や絶版になった書籍などが閲覧できずに困っている。」
    - 「どうしても必要な書籍で購入できるものは通信販売で入手していますが、デジタル化・オンライン化されていない古い資料（特に近代日本の各種新聞・雑誌をはじめとする文献）や揃いの事典類・目録類は、経済的にも置き場所のうえでも購入することができず、大変困っています。」

Q7 望む支援

Q7 図書館休館の中で研究を続けるにあたり、あなたが望むのはどのような支援ですか。(複数選択可)



[2,519名]

値	選択肢	人数	%
1	1 研究目的の文献（古書や電子書籍も含む）の購入費の援助	1061	42.1
2	2 研究目的の文献について、館内閲覧を伴わない貸出しサービスの実施（例: 事前予約した文献の受取のみ等）	1670	66.3
3	3 研究目的の文献について、来館を伴わない文献の貸出しサービスの実施（例: 文献の郵送や一部電子化等）	1838	73.0
4	4 デジタル化資料の公開範囲拡大（例: 国立国会図書館内限定送信の資料を館外利用可能にする等）	1908	75.7
5	5 十分な感染症対策を施した上での館内限定資料の利用（例: 事前予約による滞在時間や来館人数の制限等）	1077	42.8
6	6 特に望む支援はない	34	1.3
7	その他	86	3.4

- 回答者の 7 割強が「デジタル化資料の公開範囲拡大（例：国立国会図書館内限定送信の資料を館外利用可能にする等)」を望んでいる（75.7%)。

- 研究目的の文献について、回答者の 7 割強が「来館を伴わない貸出しサービスの実施（例：文献の郵送や一部電子化等)」(73.0%) を、6 割強が「館内閲覧を伴わない貸出しサービスの実施（例：文献の郵送や一部電子化等)」(66.3%) を望んでいる。

- 「その他」(86 件）のうち、多かったものは、オンライン公開の拡大（23 件)、複写ジャーナルの拡充（11 件)、電子ジャーナルの拡充（8 件)、データベースの拡充（7 件)、各種提出期限の延長（6 件)、国立国会図書館の遠隔複写サービスの再開（5 件)、などである。

- 最も多かった「オンライン公開の拡大」(23 件）について、一部をご紹介する。
  - ✧ 「既存資料の書籍化　研究上の分析対象となる資料(ex.古い会議録や，各機関が過去に発行した雑誌など）のオンライン公開の推進」
  - ✧ 「デジタル化した論文などの会員限定公開や有料公開を一時的にすべて無料公開にしてほしい」
  - ✧ 「大人の研究者はなんとでもなりますが、学生の立場から考えてもらいたく、なるべく簡単に且つ無料で電子文献を手に入れられるような手段を設けて欲しいです。」

- ✧ 「1）日本の出版社の書籍のデジタル化を急速に進めて欲しい。研究書はさながら、大学の教育のためにもテキスト（教科書）のデジタル化が急務である。学生が書店に行けず、書籍も品切れになっている。オンライン授業ではデジタル教科書が必要である。Kindle, 生協書店、MaruzenEbook, 紀伊国屋 kInoppy などでも購入、閲覧；大学図書館の Ebook サービスでも使えるようにする。特に学生や若手研究者への財政補助、学割を進めて欲しい。2）オンライン授業のために利用できる教科書などの著作権法改正を速やかに進めていただきたい。3）科研費などの調査の一部（図書館調査や現物利用、出張など）は事実上、不可能となり、柔軟な対応が望まれる。」
- ✧ 「選択肢（3）に挙げられている「国立国会図書館の館内限定送信」および、「図書館送信資料」を大学図書館などが再開するまでの期間限定で良いので「インターネット公開」にしていただきたい。そうしていただければ、学術誌や専門書籍など従来には大学図書館で利用していた多くの文献が外出せずとも自宅のインターネットで閲覧利用することが出来るようになると思います。」

FA 意見・感想

FA 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。なお、本アンケートへのご意見やご感想がある方はご記入をお願いします。

- 319 件の回答を頂いた。多かったものは、困難・窮状 (89 件)、本プロジェクトへの応援メッセージ (86 件)、教育（講義・学生指導）の困難（44 件)、アンケートへの改善意見（21 件)、オンラインサービス拡充の要望（17 件)、図書館員のことも心配であり配慮が必要である（14 件)、国立国会図書館への要望（13 件)、本プロジェクトへの改善意見（11 件)、などである。

- 以上のうち「困難・窮状」(89 件)、「教育（講義・学生指導）の困難」(44 件）をご紹介する。

- 困難・窮状（89 件）

このプロジェクトに関与している方に敬意を表します。図書館でしか閲覧できない資料を用いる研究者の方（特に歴史学系の方）にとって、この問題は致命的です。本当に困っていると多いと思いますので、どうか頑張ってください。なお、アンケートの様式についてですが、大学院生の学年数値入力の仕方がよくわからないので、一義的になるように注記が必要ではないかと思います（ちなみに私は D4 なので、「6」と入力しましたが、合っているのか不明です)。
M2 でこれからいよいよ調査，と思い立っていたので，現在どうしようか分からないし見通しも立たないしで，本当の本当に困っています。ですからこうしたアンケートをして下さり本当に感謝します。私たちの声が少しでも伝わるととてもとても助かります。
貸し出し業務を再開してくれないと、個人がどう工夫しても研究には支障が出ます。
本学では、公費で書籍を購入するための手続きを図書館が行なっていますが、それすらストップしていて、とても困っています。
研究のほか、授業に関する書籍も読めなくなっております。学習の質や量が格段に変わりますので、是非とも簡便に書籍が手に入れられる環境が欲しい所存です。
M1 です。修士論文で官公庁などの通知文における言説分析をおこなっているため資料の印刷が欠かせません（他にも先行研究の印刷が必要です)。ですが自宅にプリンターがないため、それらの作業をノートパソコンでおこなっていますが一画面では限界があります。分析は量も伴うため、図書館が継続的に利用できないと今後の研究の進捗に支障がでます。図書館員さんへの感染リスクを考えれば高頻度の開館は全く望んでおりません。ただ、大学をロック

アウトし、完全に図書館を利用できない措置については変更を強く願います。
社会学の研究をしている修士 1 回生です。実家から大学まで 1 時間半ほどかけて通学しているため、大学図書館が開いていたとしてもそこまでの移動自体にリスクがある状態です。 ・郵送での文献の貸し出し ・実家近くの大学図書館で所属機関の文献が受け取れるようにする ・実家近くの大学図書館で（事前予約の上）貸し出しサービスを受けられるようになる などの改善策があればいいなと思います。
重要な調査です。大学院生は、その研究の進捗がアカデミアにおけるキャリア形成と密接に関わらざるを得ない状況で、将来への強い不安を抱えながら様々なフェローシップや助成金に「自力で」応募して糊口をしのがざるを得ません。こうしたなかで図書館という場が使用不能になり、研究がストップしてしまうとただでさえ見通しが悪いのにいっそう研究しながら普通の生活をする（良い生活ではない、ごく普通の生活）ということに希望が持てなくなります。
所属校では電子ジャーナルの講読数が少なくほとんどを館外からの文献コピーに頼っていました。今春に博士課程を修了し研究員になりましたがコピー費が自己負担になったことも併せて経済的に非常に苦しいです。さらに非常勤講師として授業準備の負担も増えています。
今年は科研費で研究できるが、もしこの支援がなかった場合、書籍購入は困難である。
図書館だけでなく研究室にも(学部棟そのものに)立ち入り出来なくなっており、日本文学を学ぶ学生のほとんどは文献に触れられず何も出来なくなってしまっています。 仕方ないこととはいえ困ってることが、このアンケートをきっかけに広まればいいなと思っています。
カナダの大学の博士課程に在籍中です。授業を取り終え、日本に戻りこちらで博士論文を書いています。英語や仏語論文は在籍大学のオンライン図書館でおおかた閲覧ができるのですが、日本語文献はこれまで新型コロナウイルスの流行前から自費などで購入するなどしていました。子どもが 2 人おり、仕事もしているので、図書館に行く時間がなく、購入して手元に置いておくほうが容易だと判断しました。 ただ費用負担は以前からありました。仕事はフリーランスで、新型コロナウイルスの流行により仕事が減り、収入源となっているため、書籍購入のための資金を確保することは簡単ではありません。 今回の新型コロナウイルスの流行をうけ、図書館への来館がさらに難しくなります。論文のオンライン公開が進めば、私のような育児・仕事をしている大学院生も文献にアクセスしやすくなると思います。新型コロナウイルスの流行だけではなく、研究者も多様な背景を持つ人がいることへの配慮という面からも、よりオンライン化が進むことを希望いたします。
これまでの研究活動においては、図書館とは資料収集において必要であっただけではなく、論文作成や学会報告準備、事務的なメールの送受信といった、研究活動全般を行なっていた主要な場所でもありました。このような場所が使えない今、研究を進めるうえで非常に大きな困難を感じています。 具体的には、学振の申請や学会報告に必要な資料収集、またそれら資料の作成ができないという状況が、喫緊の問題として生じています。 各機関は、図書館資料のオンラインでの公開の必要性と同時に、上記したような従来存在していた制度の、申請期日の延長や参加機会の保障といった対応を至急検討して頂きたく存じます。
現在は閉館を予想してあらかじめ借り出した文献や、電子媒体の利用などでなんとか凌げていますが、1ヶ月程度という想定で考えていたので、今後現状が続くと影響が深刻化します。また海外の図書館や文書館の閉館による研究への影響も深刻です。ぜひ継続的な調査をお願いします。
大変困っています。こんな世の中ですが、少しでも学費のもとをとり、充実した学生生活を送れるよう、他人任せに

なってしまって申し訳ないのですが、よろしくお願いします。
アンケート回答の機会を頂戴しありがとうございます。資料閲覧ができないことで本当に困ってます。
人文学系の資料は特にデジタル化が遅れており、図書館が開いていなければできないことが多いです。また、県外や海外への移動も制限されており、一次史料の確認もできません。
切実です
恐らく図書館を利用できないことで困っている学生はたくさんいると思います。私の周辺の学生だけでもほとんどの人が調べ物が出来ずに困っていると聞きました。何か新しい形で従来図書館で行えていた調べ物ができるようになると非常に助かります。
所属大学から離れた地域に暮らしているので、図書館が開いていたとしても、公共交通機関を使用しなければ本を借りに行けず、感染リスクと研究を天秤にかけなければならない状況が発生しています。
このようなアンケートを作ってくださりありがとうございます。人文系の研究、教育にとって図書館は生命線です。自分の研究だけでなく、学生にとっては深刻な影響を与えます。何か打開策を考えたいと思っています。
払拭しきれない不安の可視化、有難いです。迫り来る締切と何も出来ない状況に死にたいほど追い詰められてます
図書館の休館あるいは開館時間の縮小がなされる一方で、私の所属する研究室ではゼミ発表はオンラインでの実施が決定し、学位論文等の提出期限も変更はなさそうである。研究の進捗だけでなく、学位論文やゼミ発表の質が低下したり、教員と学生の間で不満や不信感等が生じたりする事態も危惧される。
大学卒業後、地方都市の実家に住みながら近隣の大都市に長距離通勤していて、勤務先の都市の公立図書館の資料が充実しているため頻繁に利用していました。通勤途中の立ち寄りが利用のほとんどで、開館時間を短縮された際には退勤後の利用が困難になり、休みの日にわざわざ出向く等していました。 現在は完全休館となってしまっていますが、予約資料の受け取りだけでもできると助かります。研究資料以外にも、小説等の文庫本をよく借りて読んでいましたが、現在それもかないません。
私は史学を大学で専攻する者です。史料がなければ論文を書くことすら儘なりません。このような状況に大学４年次が直面していることを是非伝えて欲しいです。
先行研究が収集できず論文執筆に困難をきたしている状況を大学関係者以外に知って欲しい
原本やマイクロフィルム資料の閲覧に依存している研究もあり、閉館によりそれが完全にできなくなりました。それが一番困っています。
私が所属する東京外国語大学の図書館では予め予約した本を窓口で受け取ることだけはできます。しかし、そもそも他の方も本を長期で借りたいと思っているので借りたい本が既に借りられていたりしています。また、書架を見ながら少し立ち読みして決めたい本もあるので最初から決め打ちで本を予約するのは難しいです。私は専門が言語学であるため、国語辞書や事典などそもそも禁帯出の文献を参照したいことも多いので、貸出しか許可されないとなると辞書の参照ができず研究が進みません。国会図書館にしかないような文献もあるので国会図書館の閉館によって先行研究の検討が出来ず困り果てています。
偶然こちらを拝見して回答します。博士論文には提出期限があるので、閉館（業務の完全な停止）が、宣言が出されてからの一か月などでなく数か月や学期単位など長期化すると、執筆者の人生に影響が出そうです。
制限を設けた上での開館やデジタル公開資料の拡充と、そのための図書館への予算投資などが行われて欲しいと願います。文献の中には高額な書籍だけでなく、古典籍や廃刊資料など、予算の補填だけでは厳しいものがあると思います。特に研究発表が近い方に優先的に支援が行われて欲しいです。
所属先があるぶん私はまだ恵まれていますが、非常勤講師や大学院生の方にとっては死活問題だと思います。きわめて意義深い活動、どうもありがとうございます。
都市史研究をしているものです。行政文書が主な史料のため貸出不可・内部閲覧でしかできません（館内での撮影は可能ですが）。限定的にでも来館を可能にしていただけると大変助かると思っています。授業等ストップしてるこの期間は、研究者が純粋に資料と向き合い研究に没頭できる期間ではないかと思っています。感染対策は前提として、

前向きに図書館が利用できるようになればと思っております。このようなアンケート作成に大変感謝しております。
アンケート実施ありがとうございます！国立国会図書館に行けないのが厳しいです。お金で買えるなら文献購入でも良いかな、とは思っていますが、まだ学振のお金をもらえていないので、難しいのが現状です
文献や新聞をベースに研究をしている者ですが、ほとんど情報にアクセスできない状況。条件付でデジタルコンテンツにアクセス可能となる手段が少しでも増えれば、と思います。
建築史を専攻しており、とにかく文献・資料頼みの研究なので、困っています。是非プロジェクトの成功を願います。主催者様方もご自愛ください。
無給の研究員なので、もともとすべて私費です。前期は非常勤ありません。生協で買えなくなり、本代に困っています。
人文社会科学系全般にいえることかもしれませんが、歴史系にとって、図書館は研究・教育にとって不可欠なインフラです。院生・OD・PD のときに図書館が閉館されたら何もできなかったでしょう。図書館員の負担・健康上の安全に配慮したうえで、研究・教育機関所属の教員は図書館と連携して、とくにキャリア形成が必要な世代への支援体制をつくる必要があると思います。
現状で自分自身に大きな問題はありませんが、このアンケートに回答しているうちに、もし院生の時にこの状態だったら、M 論や D 論を書けていなかっただろうなあと、改めて事の重大さに気づきました。その一方、日本にいる若手でも、デジタル化の進んだ欧米言語圏の資料で研究が完結する人（≒留学歴を持つある程度恵まれた階層にいる人、また英語での論文執筆が必須といった最先端の研究を進めている人）であれば、大きな苦労なく従来の研究を進められるので、これを機に、国内の若手研究者の間に格差が生じるのではないかと懸念しています。
公共図書館に勤務する行政職ですが地域公益活動に参加する過程で利用する図書館が今すべて閉鎖し公益活動にも影響が出ています。多面的な学習機会と図書館にどう影響が出ているか、ぜひリサーチペーパーを拝見します。
図書館一斉閉館の措置により研究に大きな支障が生じていたため、このように問題提起して下さったことに深く感謝しています。全面的に支持させていただきます。
この問題について困ってる中で当アンケートを見つけたので記入させていただきました。遠方に行くこともはばかられる中、近隣の図書館並びに大学の図書館も全て閉館となっているので学業に支障が出ており、私費で購入しようにも値段がかかるなどの問題があるため悩んでいます。
このような調査をしていただき有難うございます。また、研究とは別に気分転換の読書を促す区立図書館の閉館もなにげに気づまりです。
サーバーがダウンしてオンラインジャーナルにアクセスするための VPN 接続ができないことに最も困っている
このような企画を立ち上げて下さり、ありがとうございます。 文献研究を主としております。 幸い、主要文献は公的な研究費で購入していますが、関連することが予想されるものの内容が確認できない高額な学術書については購入を躊躇ってしまいます（価格に加えて、居住スペースの問題もあり）。 研究室も封鎖されているため、資料を確保するスペースも不足しており、書籍の貸し出しができないことの痛手を感じております。 長期化するようであれば、それを前提としたサービスへの切替が行われることを期待しています。 よろしくお願いいたします。
通信大学生です。研究なんて大それたものではありませんが、地方でもやれると貸借サービス、コピーサービスを中心に頑張ってきました。見当つけて取り寄せても使えないこともあるので、直接本を見る機会を失いたくないです。
実質的な改善は無理かもしれませんが，こうした取り組みに触れるだけでも，自分の窮状を思いやってくれる人がいると感じることができ，顔を上げることができると思います。ありがとうございます。身近な図書館もそうですが，地域研究のため，現地でしか閲覧できない資料も多いので，研究対象地域の図書館の休館も打撃です。
図書館について、普段はそれほど困らないのですが、書籍や文献は「この時必要」、「今あれば」という時がありま

す。自分の大学図書館に雑誌があるのに（しかも同じ敷地に）一切借りれないというのは不便だと思いました（投稿論文、学会のアブストラクト、学振の申請書、博士論文執筆の準備など、やることが多いのに……）。生協で購入しようにも公費以外は現在受け付けていない状況で、少し困っております。
正式な所属のない非常勤や嘱託の研究者が資料によりアクセスできる環境が整えばと思います。
他の研究者の論文を読み、その論文の参考文献を引きたいと想っても、図書館がないと、その文献に当たれない。確認が取れないので、待つしかない状態に陥っている。
借りる代わりに購入しているので、費用も負担ですし、本の保管場所にも困っています
大学の図書館や都心の図書館を利用するためには公共交通機関を使う必要があります。図書館が感染症対策をしてもそこへ行くまでの過程で感染する不安が大きいので家から出ないで文献資料を手に入れられたら最善だと思います。
現行の大学図書館が公開する電子書籍だけではとても足りない状態です。今はバイトも止まり学術書を購入する余裕もないので　研究のリソースがなくなっており、まともに研究ができるか極めて不安です。
学会の大会中止も相次いでおり、若手研究者は業績を残すにあたって、大変な状況ですよね・・・。 このような調査を実施してくださり、ありがとうございます。
大学でリサーチ・アシスタントやティーチング・アシスタントのアルバイトを複数掛け持ちして、研究費、学費、生活費を賄っておりますが、自粛要請により大学での勤務が困難となり、ほとんどの収入が途絶えております。 この状況で、図書館の利用不可による書籍の自費購入は非常に厳しいです。研究助成金に応募するにも、準備のために書籍や論文が相当数必要です。 同様の状況にある学生は多いと思います。大学院への進学は自分で選択したことだからと、声を上げることのできない人も多いのではないでしょうか。 こうした中で、このようなアンケートを実施していただけたことだけでも、大変心強く思います。
今年から修士学生となり、新しい知識を必要としている時期だったのですが、このようなことになってしまいとても困ってたため、図書館に関してのアンケートが行われていることが非常に心強いです。ありがとうございます。
私は社会福祉法人に勤める在野研究者です。給料は高くなく、生活することで精一杯です。今後の研究者としてのキャリア形成には研究・論文の発表が欠かせません。それを援助してくれる図書館は、研究をサポートするだけでなく、私の人生を支える重要な存在です。今回、図書館が休館し、今後の研究の見通しが立たないのは、とても苦しいです。少しでも研究者の声が届けば良いと思い、回答をしました。私の声が何かの役に立てば幸いです。
このような調査があると知り、バラバラに活動している研究者の抱えている悩みを一つに集約して頂けること、非常にありがたく思いました。 研究活動を続けるための対策をしていただけるとすれば非常にありがたいことは言うまでもありません。しかし、現実的な問題として、やはり何よりもまず感染拡大を抑えることに協力しなければならないとも感じます。そこで、東京に暮らす個人といたしましては、このように感染拡大が収まらない中で誰かに無理を強いながら研究環境を整えていただくよりも、（自粛要請と休業補償の関係と同様で）在学資格の延長や授業料の免除など、この期間に研究が遅滞することによって受ける様々なダメージ感を軽減してくれるような対策がセットで取られることを望んでいます。 このような事態になっていても業績の達成にやきもきせねばならず、研究者として柔軟にこの状況のなかでできることを考える余裕すら与えられていないということに対して、不甲斐なさを感じています。
この状況を伝える手段を欲していたので、この企画にとても感謝しています。 上記以外にも、不安を書かせてください。 ・国会図書館内限定・大学送信資料を家からも見られるようにしてほしいです。専用端末は大学図書館内にあり、閉

館中で利用できません。大学の学務システムから入るようにすれば範囲は限定されると思うのですが。 ・私は美術史を専攻しており、図版の版権の問題などあって、データ化されていない・公開されていないものが多くあります。全集など大きくて重く、個人で買うには値段の高い本を参照する必要がありますので、たとえ研究費の補助があっても影響を抑えるのは困難です。 ・高齢の両親と暮らしており、外出はできる限り減らしたいです。限定開館になったとしても通えないかもしれません。 ・3 月から図書館への影響は出始めていたと思うのですが、学振は 4 月半ばを過ぎても延期措置を打ち出していません（4/20 に RPD の締め切り延期が HP 上に発表されましたが、そのほかについてはまだです。）キャリアに関わる問題です。 ・研究者は、人類のために研究をしているはずです。時には公費で、税金で支援してもらいながら研究に取り組んでいます。自分の目先の研究のために「図書館をあけて！研究者と学生だけならいいでしょ！」とは言えません。 どうか、一日も早くコロナが収束し、平和に、安全に、研究に取り組める日がきますように。 活動ありがとうございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。
全キャンパス閉鎖が始まったのが 4 月 8 日、閉鎖決定が前日の 4 月 7 日午後 2 時でした。明治大学は、図書館のみならず全館閉鎖となっており、研究室へも入ることができません。防犯上の問題で自宅に研究用の多くの本を置いているタイプなので、本当に必要なものだけ持って帰ることができましたが、研究室に全ての本を置いている人がいます。彼らは本当に研究が止まってしまいます。この図書館閉鎖問題のほか、オンライン授業についても調査してほしいです。経産省・文科省の「まなとめ」のズームによるアカウント取得無料は 4 月末までですが、明治大学のオンライン授業開始は 5 月 7 日です。
新しい文献が入手しづらい分、手持ちの文献を熟読する良い機会にはなっています。しかし、この状況が半年続くとなると、厳しいものがあります。
このような活動を行って下さりありがとうございます。専門書や絶版資料など大学図書館でないと入手できない文献も多く本当に困っています。頑張ってください、応援しています。
人文学では、古い文献資料や研究書の対比などが研究の本道であり、それが不可能なことは自分の発想や構想が朽ちていくのを見ているような焦燥感を感じる
このようなアンケートを実施していただきありがとうございます。 以外、いち学生の考えではありますが、文献に関することでの、現時点での懸念を記述させてください。他の方の回答を含め、こうした問題が共有され、政府が適切に対処をすることを望みます。 ・大学側もいろいろ厳しいのだとは思いつつ、学生としては、学費を払って図書館が使えないのは話が違う、とも思うので、大学側としても政府に強く訴えかける（このことを解決に導く行動をとる）責任があるように思います。 ・首都圏は本屋の営業も取りやめが増えており、その影響が全国に及ぶのではないかと心配しています。 ・また、Amazon では生活必需品の発送を優先しているようで、本を検索しても在庫がない場合があり、それも今後の懸念事項です。
急ぎで必要なもので入手可能なものは私費で購入もしていますが、昔のものになればなるほど、稀少であったり高価であったり、一回の学生には入手困難なものが多いです。せめてデジタル資料を館外でも閲覧できるように、博士論文を取り寄せて読めるように整えていただきたいです。どうかよろしくお願いいたします。
大学院生は収入も減り本を買うお金もないです。研究費を得ている人は一握りです。

研究業績が本人の家計環境に比例するのはすごく悲しいです。 また、図書館司書の扱いが悪いことも、今後はもっと改善されるべきだと思っています。 このような試み感謝します。
大学図書館でアルバイトして研究費や生活費を稼いでいたので図書館が休館になり生活が厳しいです　声を取り上げて下さるアンケートの実施感謝申し上げます
正規雇用であれば自宅や学外から大学の図書館のデータベースにアクセスできるが、非正規雇用にはそのアクセス権はそもそもない。これまでは図書館に行き、pc からアクセスすることができたが、大学の構内には立ち入りも出来なくなっており、非正規ではほとんど研究は出来ない環境にある。
芸術系実技が研究に入るのかはわかりませんが、音大生も図書館閉館で困っているということを知っていただけると幸いです。レッスンなし、練習場所なし、楽譜なしの三重苦です
このような活動をありがとうございます。学振ではなく、アルバイトが途絶えたため特に私費購入は厳しい状況です。学会報告も控えていましたが（その後中止になりましたが)、この図書館閉館を受けて研究を進めることができず困っていました。図書館も大変なのは重々承知なのですが、混み合って負担が高いからだと思うのですが、問い合わせの回答が来ない、開館日を規制しているため複写サービスを受けるのに時間・手間がかかる、複写できない資料を調査しているためサービス対象外で見る事ができない、複写ではなく閲覧の場合の対応が難しい、など正直困ることも多いです。図書館で働く方々のご負担を鑑みながら図書サービスを受ける難しさを痛感しています。
雇止めにあった元会社員であり、通信制大学に在籍しています。卒業研究が卒業の条件とはなっていませんが、現在参加している地域活動において様々考察した事を卒業研究としてまとめたいと思いました。既に 1 年卒業年次を延期しており(編入の為)更に卒業を延期する事は、今後のスケジュール上難しい状態です。 また、コロナ蔓延等で雇止めにあった非正規労働者救済の為に労働局に出向くというような活動も現在進行形で行っており、労働法規・規則・指針等は、オンラインでも閲覧等は可能ですが、識者等への面会も制限され、その解釈については様々文献にあたる必要があり、その点でも早急な措置を望んでいます。 非正規の図書館職員と思われる方から図書館の限定的開館・利用について、私も強い反対意見を聞いております。彼ら彼女らも日頃低賃金労働を強いられており、その心情は理解に値すると思うのですが、一方でコロナ蔓延で、雇止めにあって次の再就職の見通しも立たない非正規労働者が多数に上るのも現状だと思います。そういった方々の臨時的な雇用の受け皿として図書館をとらえることも可能ではないかと思っています。オンラインで予約を受け付けて、月に数回、一日あたり 1～2 時間、1 人当たり冊数制限付きででも開館して、図書の運搬等にそうした外からの臨時的な雇用者もしくはボランティアとして活用して、自動貸出機や図書洗浄機を活用すれば、図書館職員は最小限で済むと思うので、そうした形ででも、早急に臨時的な開館を望みます。
プロジェクトを立ち上げて頂き大変感謝しております。この武漢肺炎騒動で、閉塞的な社会になった中でも、図書館さえ開いていれば何とかなっていた。しかし、私にとって最後の砦であった図書館が使用不可になった途端、私の研究に関わるあらゆる作業が頓挫してしまい急激に息苦しさを覚えるようになった。
アンケートの設置、ありがとうございます。 紀要や雑誌のバックナンバーは流通しておらず、私費購入もできないため図書館頼りです。また、緊急事態宣言下ではアルバイトも TA 業務もなく、収入減で私費購入はなかなか厳しいものがあります。研究が続けられるよう、対策がとられることを切に願っております。
多くの学生が文献収集に苦労しています。是非、文科行政にこの窮状を伝えてください。
勤務校では教員研究費や学部の経費の執行も 5 月 6 日まで一時的に停止されているため、他校でも同様の事例があるのではないかと考えている。
所属機関がない（非常勤）の場合、もしも何らかの購入補助があったとしても助成の対象にはならないのだろうと思

いました。
大学図書館は、学生研究チューターや学生の夜間バイトのように、学生が学内で働くことのできる場所でもあります。図書館が閉まればそうしたアルバイトも成立しなくなってしまいます。そのような学生への経済的支援（その裏側の労働力供出）という軸でも、何か代替的なアイデアがあるとよいのだが、と思っています。なかなか一人でできないことも多いので、集団として何か提案できるとよいですね。
古書であっても手に入らない書籍や、大部の辞書や統計資料等を頻繁に繰り返し使わざるを得ない場合もあり、時間や人数を制限しても、一定時間滞在しての利用を可能にして欲しい。
「休館」という事態に非常に困っていたのでこのようなアンケートの実施は非常にありがたいです。幸いすぐに投稿論文を準備するという状況にはないものの、この状態が長く続くようですと投稿論文や学会発表に支障が出るのは間違いないと危惧しております。私はヨーロッパの思想研究を行なっているのですが、現状向こうの郵送機関も停止ないし停滞にあり、私費を使ったオンラインによる購入にも支障が出ており、研究環境としては厳しいものがあります。また、一番困ったのは新年度の授業準備でした。自分の研究ということであれば自宅にある程度の資料があるので対応可能なものの、学生さんたちを相手にする講義となると、自分の関心とは逸れる資料についても目を通す必要があります。それが手に入らないというのは非常に困りました。私としては、図書館は「不要不急」の機関ではなく、労働のため最低限に必要な施設だと認識しております。そのような声が少しでも多く集まることを願います。
博士号取得のためには査読誌への論文投稿が必要ですが、〆切が迫る中、必要な文献が揃わないことから執筆できなくなってしまい、困っています。 査読誌への掲載数が大学院の規定を満たさなければ博士号が取得できず、就業年数が伸びることになってしまいます。 そうすれば学費をよけいに負担しなければならないですし、今後のキャリアプランも狂ってしまいます。 人文系は特に文献なしには研究が進まないので長期間の図書館等の休館は重大問題です。 ぜひ解決に向けて働きかけのほどよろしくお願いいたします。
私費で必要な資料を集めるのは困難であるため、このプロジェクトが実現すれば、本当に助かります。
大学生です。3年生のため卒論執筆等の短期的な問題はないのですが、やはり大学も、近所の市立の図書館等でさえ利用できないというのは、貴重な大学生活の機会が奪われている感覚があります。このような活動をしてくださっているのは非常に有難いです。
切実に困っているのでアンケートをしていただいてありがたいです。よろしくお願いします。
このようなアンケートを行って頂きありがとうございます。図書館以外にも、指導教授に直接質問を行い指導を受ける機会が無く、大学院でも経過発表やアドバイスを収集する機会も延期になるなど、影響は甚大です。
報文の投稿を断念し、学振への申請に影響が出ています。長期戦になりそうなので、なんらかのかたちで文献に触れられるしくみができたらよいと思います。
修士論文や学会発表に向けた準備がコロナによって厳しい中、こうした活動を考えてくださって、本当にありがとうございます。修士生としてできることが限られているかもしれませんが、できる限りの範囲で、こうした活動や論文執筆に貢献していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。
修士1年で、飛び級するため本年度卒業の学生です。図書館の利用ができないことにともない、基本的文献の利用ができず執筆が止まっており、甚大な影響がでています。しかし、購入することは今の経済的状況を鑑みると不可能です。
英文の文献についてはデジタル化が相応に進んでいるが、日本語の資料をオンラインで閲覧するのは困難である。図書館が利用出来ていた時は、自分で足を運んで紙の本を確認すれば良かったが、今はそれが出来ず、和文が中心となる学生用の参考文献リストを作成することも出来ない。

非常勤講師のため、大学からの研究補助費がいっさいなく、これまでも資料の購入を要する時は自腹だったが、図書館はその費用軽減に大いに貢献していた。しかし今や図書館が利用出来ず、収入の先行きが見えない今は、資料の購入は今まで以上に控えなければならない状態である。
障害者の歴史を研究しています。古文書を使いますが翻刻・活字化された，刊本に掲載された物を使っておりますので，貸出さえ認めてくれればとりあえず研究は継続できます。ただ図書館蔵の原文書を使う必要がある研究をされている方には，よりつらいと思われます。
論文を書いて研究を続けていけるのか、正直なところでは不安です。できることなら、いち早く中身を確認した上で文献にあたれる状況になって欲しいと願っておりますが、人がいてこそ成り立つのが図書館だろうと思います。場合によっては職員や関係者を危険に晒すことになりますから、どこまで求めて良いのだろうかとも考えてしまいます。

● 教育（講義・学生指導）の困難（44 件）

自分の研究だけではなく、授業に必要な資料の収集ができない。また、学生の卒業論文指導にも影響がある。
自身の研究に影響はないが、ゼミ生の卒論指導などでゼミ生が文献を借りたり複写したりできない状況があり、その対応に困っています。
所属機関は、教員のみ図書館の利用ができることになっている（事前申請、時間帯限定)。ただし、学生や院生は大学に立ち入らないよう言われているため大きな影響を受けている。
社会学分野の大学教員です。自分自身の研究もそうですが、経済的基盤の弱い学生の卒論指導にあたって、大学図書館が使えないことには大きな影響が出ています。何らかの仕方で貸出サービスを維持してもらえたらと思っています。
研究だけでなく、非常勤講師としての授業準備に必要な文献の収集にも支障がある。感染が深刻な地域の図書館職員の方の生命や健康を守ることができる形で、文献へのアクセス支援を得たい。
勤務先の図書館に学外アクセスのシステムがあって契約している新聞データベースを自宅から使えること、様々な有料オンラインジャーナルが期間限定の無料配信を始めたことで大分助かっています。しかしアクセス権限のない学生への研究指導は困難なままで、文献の確認や資料調査の指示が出さなくなっています。
本アンケートにより大変大事な点に気付かさました。ありがとうございました。最近、図書館という場の存在感がなくなること自体に危機感を感じていました。将来研究をする（かも知れない）学部生にとっても、現在、インターネットの二次情報でレポートを書くことがやや正当化されつつあります。ある教員は、学生運動のときも同じように資料が借りられないまま、適当なレポートだけで単位が出たとも仰いますが、それでも、その時代はまだ一次資料の価値が高かった時代です。現代は、フェイクと根拠のある事実が分からない時代です。今後図書館が利用ができるか否かは、研究者にとっても、学生にとっても大きな問題だと思います。
教員のみ貸し出し可だが、院生をやりながら非常勤で大学等で教えているので資料が収集できず困っている。このようなアンケートを実施してくださって感謝します。
大学院や学部の卒業研究の指導に苦労しています。学生たちは困っています。お疲れ様です。本調査ありがたかったです。
課題や卒論の執筆等で、学生が図書館を利用できなくなることの影響がとても心配です。
アンケートのタイトルに「研究」とありますが，教育面でのダメージも非常に大きいです．学生に文献を紹介することもできません．
よろしくお願い申し上げます。また同じ理由で学生の卒論執筆と指導にも影響が出ています。
アンケートの趣旨からは少し外れますが、非常勤講師として授業準備をしたり学生に文献を勧められないのも困っています。また国内所蔵がない外国語文献を海外から購入することができないのもこの先長引くと不安です。せめ

て海外ジャーナルがすべて無料になればリーチできるものも増えるのですが。
若手研究者のためには、急ぎ研究環境の整備を進める必要があると思います。と同時に、教壇に立つ者として、図書館無しで教育を行うことの困難をいま痛感しています。オンライン化／電子化された参考図書が、自分の担当分野にほとんど無いため、受講学生が必要な調べ物を行えないためです。
大学学部生への教育業務上も多大な悪影響がでているので、図書館閉鎖が人文系の教育遂行に与える影響と打開策の提案についてもアンケートで可視化していただけると有難いです
本アンケートの主旨からははずれるかもしれませんが、図書館休館の影響は「研究」だけでなく「教育」の面にもあると思われます。幅広い知識が背景に要求される大学での講義を準備するにあたって、大学図書館や地域の公立図書館は非常に有益です。この点をめぐる設問を加えるか、あるいは別なアンケートを作成することは、各所に対応策を訴えるためにも有効ではないかと考えます。 いずれにしましても、本プロジェクトに携わっている方々に感謝申し上げます。
私個人の研究への影響からは離れますけれども、院生のみならず学部生も自宅待機を指示されたり大学図書館の利用が制限されたりしますと、彼らも大学卒業論文の研究文献集めで図書館にたよっているので、研究を続けられなくなり、かなり困るのではないか、と思います。どういう対処方法があるか、頭を悩ませています。
私のような専任教員はなんとか対応しています。しかし、非常勤講師や院生、学部生は対応に苦慮していると思います。より脆弱な立場にある研究者への支援が行き届くよう、私も出来ることをやりたいです。
図書館がなくて、困らないという人はこういうアンケートにそもそも答えないのではないでしょうか？　自分の研究よりも指導学生への影響の方が心配です。
研究の方よりも教育の方の影響が大きいかもしれません。図書館が閉まってしまうと、学生に文献を読ませる指示ができなくなり、J-Stage などの論文サイト程度しか紹介できていません。
自分自身が大変困っているのに加えて、指導している院生たちも大変困っています。ぜひ対策をお願いします。
教員としては、学生（特に卒論生や大学院生など）に必要な図書を薦めて、読ませることができなくなっていることが問題と感じております。自分自身は、なんとか公費で買ったり、既読の本であればある程度「思い出して」で（とはいえ、正確性については自分でも自信はありませんが・・）論文執筆などはできるのですが。
貴重な取り組みをありがとうございます。上にも書きましたが、現在最も困っている点は自分の研究の継続よりも、学生の指導です。文献を自由に推薦できないため、学生の勉強過程・調査に大きな影響が出ています。また、英語の文献は電子化が進み簡単に手に入れられることが多いですが、日本語での文献を手に入れるのはより難しいです。学生は母語・日本語で読みたいでしょうから、この点も困っています。
所属機関の図書館が契約しているオンラインデータベースや電子ジャーナルが、学外から利用できないことが困っています。また調査の趣旨とは異なると思いますが、学生の研究指導の面で図書館機能が利用できないことが非常に痛手です。
自身の研究ではないが、指導する大学院生は、修論等に重大な影響が生じていると直々に訴える物もいます。人文社会科学研究において、教員・研究者よりも、むしろ院生への影響が心配されるような印象があります。
研究に必要な文献は公費で購入しているが、教育に必要な文献の入手には支障が出ている。
アンケートの実施お世話さまです。大変良い試みだと感じました。 私の研究者の立場についてはともかく、図書館がサービスが使用できない、あるいは縮小してしまうことは、学生教育にとって致命的かと思います。何らかの手段を講じないともはや大学教育とはいえないような教育しか展開できないという焦りがあります。本アンケートの実施が、状況の改善に何らか貢献してくださることを期待しております。ありがごうございました。
このようなアンケートを実施してくださったことにまずは感謝します。常勤職のない研究者にとって致命的であることは言をまたないが、学生の指導においても打撃は大きい。オンライン記事に頼りがちな学生たちに書籍の利用価値を理解してもらいたかったが、肝心の図書にアクセスできない。研究者は無理しても本を買うが、学生にそれは

勧められない。
研究者（大学教員）の問題にとどまらない。学生も図書館で文献収集ができないので、ことに文系の高等教育には致命的。
教員本人の研究より，学生の修学指導上での不都合を感じています.
学生の卒論指導のために図書を紹介しても、図書館が閉鎖しているため学生が入手することができず、困っています。
研究への影響を中心のアンケートでしたが、図書館が閉館していることで実は教育活動への影響のほうが大きいと感じています
学生の卒論指導にも支障をきたしています。
辞典類など、これまで授業で学生に提示してきた資料を利用できない（図書館での閲覧が難しいうえに、教材として配布できるタイプのものではない／価格も高価）ことで、授業全体の計画を見直す必要があり、研究時間を大幅に少なくせざるを得なくなっています。
九州大学図書館は gw 後についてまだ何も案内がないが、もしこれからも開館しないのなら卒論やゼミへの影響は計り知れない。貸出業務のみで感染リスクを下げる形態の提示をどこかにしていただきたい。 アンケートを取ってくださりありがとうございます。
調査では、研究だけではなく、教育への影響も考慮して頂きたいです。私は非常勤講師をしながら博士論文を執筆していますが、自分の研究のために必要な文献はもうある程度揃っているのでそれほど問題ない一方で、授業のための文献を揃えるのが困難です。非常勤講師は大学から研究費が支給されず、また勤務先の図書館の電子書籍やデータベース等の使用にも制限があるので、このままでは自費で授業用の文献を購入せざるを得ませんが、非常勤講師の収入では大きな負担になります。現在の日本では教育の大きな部分を非常勤講師が担っているので、その負担が増えないように各教育機関にも訴えて頂ければと思います。
研究面ではありませんが，非常勤講師として講義を担当している看護学校の学生さんたちが卒業研究のための資料の多くを集めることができなくて苦労しています。(図書館司書さんがもともといないので，近隣の大学の図書館を利用したり，国会図書館からの個人での取り寄せに依存していたため。)
「休館」という事態に非常に困っていたのでこのようなアンケートの実施は非常にありがたいです。幸いすぐに投稿論文を準備するという状況にはないものの、この状態が長く続くようですと投稿論文や学会発表に支障が出るのは間違いないと危惧しております。私はヨーロッパの思想研究を行なっているのですが、現状向こうの郵送機関も停止ないし停滞にあり、私費を使ったオンラインによる購入にも支障が出ており、研究環境としては厳しいものがあります。また、一番困ったのは新年度の授業準備でした。自分の研究ということであれば自宅にある程度の資料があるので対応可能なものの、学生さんたちを相手にする講義となると、自分の関心とは逸れる資料についても目を通す必要があります。それが手に入らないというのは非常に困りました。私としては、図書館は「不要不急」の機関ではなく、労働のため最低限に必要な施設だと認識しております。そのような声が少しでも多く集まることを願います。
大学教員としては（自分の研究だけでなく）学生の教育指導をする上で図書館を使えないのは決定的な痛手です。その点を強調したい。
自分は大学機関所属だが、大学図書館は大学全体の方針にも左右されている。授業課題、卒論などで打撃が大きいのは、日本で電子公開書籍が少ないのにも一因があって悩ましいです。少なくとも遠隔貸し出しサービスの類を中からも要望していきたいが、外からの声にも大いに期待しています。
個人やプロジェクトの研究だけではなく、教育面でも影響を感じている。オンライン講義の実施のために文献を利用したいが、図書館の閉鎖によってオンラインで入手可能な論文や手持ちの書籍でしのいでいる。長期に書籍の使用ができない場合は、間に合わせの講義にならざるを得ない。
大学教員です。遠隔授業の準備に追われて、研究どころではない、というのが正直なところです。目下、一番困って

るのは、対面授業ができず、かつ学生が図書館を利用できない状況で、いかにして教育と指導を行うかということです。
私の分野の専門書はもともと図書館に少ない為、書籍を手に取る為に図書館に行くことは少ないが、自宅では、基本学生はライセンスが無い為論文のダウンロードが難しい。今後大学図書館も研究室も利用できない状況が続けば、研究パフォーマンスは大幅に下がる。
プロジェクトを立ち上げていただき、ありがとうございます。今回のアンケートは、卒論取り組み学年以上への影響の調査が主眼だったかと存じますが、より下の学年でも特に文学部では、基本的な文献調査の訓練すらできない、小説等の雑誌初出にあたれない、授業で取り上げられる作品が制約されるなどの影響をかなり受けています。データベース活用が活発化する（せざるを得ない）というプラス面もあるにはありますが、検索での決め打ちでは、図書館で関連分野の棚を眺めるうちに良い資料を見つけるセンス（ノウハウ）は持ちえません。長期的に、学生の研究基礎力に関わりかねないと感じています。感想で恐縮ですが、このところ感じている事柄をお伝え申し上げます。